

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和6年12月5日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 10名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	3名	

※事業所記入

事業所番号	3871200329
事業所名 (ユニット名)	グループホーム鶴翠 1階ユニット
記入者(管理者) 氏名	芝 博文
自己評価作成日	令和6年11月1日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】</p> <p>「こころを込めて、ともに笑顔を」認知症という病気から自宅での生活が困難になったご利用者に「もうひとつの家」として頂けるような環境を作り、本来の自分らしい生活が出来る事を目的に尊厳を大切にされた支援を行います。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>課題①災害への備えに関して、地域を巻き込んだ訓練が出来ておらず、緊急時の対応に不安あり。 目標：地域との協力、支援体制の構築を行う。 結果：同一敷地内のケアハウスの職員や入居者と連携をとっての訓練は出来たが、ご家族や地域住民の参加は促して取り組むことが出来なかった。感染対策を意識し過ぎて閉鎖的になってしまっているため、地域に開けた取り組みを行っていく必要があると感じている。 課題②介護計画に基づいた日々の具体的記録が出来ていない。 目標：利用者個々の重点課題を見直し、本来の自立支援に沿ったケアを実践し、記録することで、利用者の機能回復が一つでも多く報告出来るようにする。 結果：利用者個々の口腔ケアと周辺症状に関する取り組みを強化しており、第三者が見ても理解しやすい記録を目指している。しかし、業界の専門用語などの分かりにくい記述もあるので、そういった部分を少しずつ修正しながら前回よりも記述内容は向上してきたと感じている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>開設から20年が経過した事業所は、敷地内にケアハウスが隣接されている。中庭が設置され、日頃から利用者は散歩したり、職員と一緒に庭の手入れをしたりするなど、ケアハウスの利用者との交流も図られている。法人は西条市を中心に、特別養護老人ホームなどの施設や介護サービス事業所を多く展開し、地域から認知されている。開設から長年が経過しているものの、年数を感じさせない事業所の構造や清潔な空間が保たれ、広々とした明るいきらびのほかに、各居室に洗面台も完備されるなど、個別に整容や口腔ケアを行うことができるなど、生活を送りやすい空間となっている。また、歯科医から指示やアドバイスを受けて、口腔ケアの重要性を理解するとともに、内部研修を実施して、職員は口腔ケアの適切な方法を学んでいる。全ての利用者に口腔ケアマネジメントを取り入れ、月1回歯科医の往診があるなど、約2年前から口腔ケアに力を入れた取り組みが行われている。さらに、管理者は、「利用者の尊厳を大切にケアを実施してほしい」との思いがあり、日頃から職員に一人ひとりの利用者に対して、コミュニケーションを図る時間を持つよう伝えている。加えて、感染対策で運営推進会議の書面開催が続いていたが、令和7年から集合形式の会議再開が予定され、会議を通して、地域住民や家族と関わりながら、少しずつ地域との交流や繋がりがりづくりの取り組みが行われていくことも期待される。</p>
--	---	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	最初の面接で必ずご本人とご家族にお会いして、それぞれの思いを聞くようにしている。	○	/	◎	入居時に、職員は利用者や家族から暮らし方の希望や意向を聞いて把握するとともに、入居後にも、新たな情報の把握に努めている。毎月、利用者や家族の意向のほか、大切に思うこと、喜びを感じるなどなどの情報を更新している。中には、思いや意向を伝えるに利用者もおり、表情や動作などから思いをくみ取ったり、家族から情報を聞いたり、今までの暮らし方の情報を参考にして、より良いサービスの提供に努めている。
b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	本人の気持ちを大切に、その人にとっての支援を大切にしている。	/	/	/	/		
c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	面会での来荘時やご家族との電話連絡で、ご本人の意向についてご家族へ随時相談している。	/	/	/	/		
d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	月に1回はユニット会を開催し、利用者個々の様子や意見を職員それぞれが抽出し、共有している。	/	/	/	/		
e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	多忙な時に、職員主体での支援になることもあるので、お互いが注意しあいながら、ご本人の気持ちに寄り添う努力を行っている。	/	/	/	/		
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	ご家族に対して、随時本人の性格や趣向などの分からない事を聞きながら対応させて頂いている。	/	/	◎	入居前に、職員は病院や自宅等を訪問して利用者や家族と面談を行い、生活歴や生活環境、暮らし方、こだわりなどの情報の聞き取りをしている。また、病院や施設の関係者のほか、居宅介護支援事業所の介護支援専門員から、少しでも多くの情報収集に努めている。把握した情報は、整理して面談記録票に記載し、職員間の情報共有に努めている。アセスメントシートには、趣味の項目の欄が設けられ、趣味や好きなことなども記載されている。
b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	毎月利用者個々のアセスメントを行い、常に最新の現状の把握に努めている。	/	/	/	/		
c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	◎	日々の状況について、朝と夕と申し送りを行う事で、毎日のケアがスムーズに引き継がれるようにしている。	/	/	/	/		
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	利用者の健康状態や必要物品の把握に努め、本人の立場に立つての検討を行っている。	/	/	◎	利用者や家族のほか、医師等の関係者から情報を得て、利用者が何を求め、どのような支援が必要なのかを利用者の視点に立つて検討している。アセスメントシートには、利用者が大切に思うことや喜びを感じることを、やりたいことが記載され、より良く暮らすための課題の把握や解決にも努めている。
b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	◎	申し送りノートを作成し、本人の希望や状態の変化については随時ノートに書き込むことにより把握に努めている。	/	/	/	/		
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	ご家族や本人主体の視点で計画を行っている。	/	/	/	利用者や家族から意見や希望を聞くほか、主治医や看護師から指示や助言をもらい、アセスメント情報や把握した情報をもとに、職員から意見やアイデアを出し合いながら話し合い、計画作成担当者が介護計画の原案を作成し、管理者が計画の最終確認をしている。また、利用者等の意見を反映した計画作成に努めている。さらに、認知症の行動・心理症状質問票(BP SDシート)を活用して、全ての利用者の現状を毎月確認するとともに、認知症の症状や状態を数値化して課題分析を行い、必要に応じて計画に反映させている。
b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	利用者本人の経歴などを知る為にご家族といつでも連絡をとり、計画に反映させて頂いている。	○	/	/	◎		
c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	重度化しても、都度担当者会議などを開催し、その時に必要なケアを提供出来るように計画している。	/	/	/	/		
d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	ご家族の協力体制も反映した計画を作成している。	/	/	/	/		

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	△	計画作成担当者が作成した計画について、計画と記録のズレも感じるため、完璧には共有できていない所もある。	/	/	/	○ ユニット会議等の中で、介護計画の内容を話し合うとともに、職員は一人ひとりの利用者の計画を確認し、内容の把握に努めている。また、ケアプラン行動計画チェック表を活用して、日中と夜間の2回、計画のサービス内容に沿ったケアの実践の有無を記録に残している。チェック表には同じ記載内容が続いているのが見受けられたため、今後はケアの実践の有無を○×で記載し、実施できなかった日には、その理由をケア記録に記載するなど、よりモニタリングに繋げやすく、簡略化した記録が残せるように、職員間で検討していくことも期待される。	
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	記録が画一化しているときもあるので、状況確認が上手くつかめていない事もある。	/	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	介護保険の有効期間を確認し、短期、長期と期間に応じての見直しを行っている。	/	/	/	◎	
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月ユニット会を開催し、状態の変化について確認する場所を設けている。	/	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	入院などでADLの変化や認知症状に変化があれば、その都度介護計画の変更を行っている。	/	/	/	◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	緊急時には管理者も含めて話し合いの場を設けて、情報共有している。	/	/	/	◎	
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	全員が発言する機会を与え、一人の意見に偏ることがないように配慮している。	/	/	/	◎	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	◎	会議に出席できない職員も、議事録を確認することで共有できる仕組みを作っている。	/	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送りツールは作成しているが、確認忘れなどによる周知のズレも時々ある。	○	/	/	○ 職員の勤務交代時に、日々の記録等を活用して、申し送りを実施している。また、申し送り帳は職員の更衣室前に置かれ、出勤時に職員は必ず確認する仕組みづくりができています。	
(2) 日々の支援										
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	◎	毎朝の申し送りでその日の予定や、個々の希望について話し合いを行い、予定変更などの調整も出来るようにしている。	/	/	/	/	
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	服装やおやつメニューなど、随時選択できるように取り組んでいる。	/	/	/	◎	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	認知症状によるその時の予定が達成出来なこともある事を理解し、本人の状態に合わせての支援を行っている。	/	/	/	/	
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うろおい等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	○	掃除や調理作業の忙しさに負けて、利用者への声掛けや訴えの傾聴があまり出来ない事もある。	/	/	/	/	○
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	意思疎通が困難でもその人の性格や表情、健康状態などを多角的に分析して、その時の意向や必要なケアを把握できるように努めている。	/	/	/	/	/
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	○	職員が多忙に負けて対応が雑になることもあるので、お互いに注意しながら丁寧な対応をいつも心掛けています。特に尊厳の大切さは重視している。	○	◎	○	○	
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	羞恥心に配慮した取り組みを行っている。	/	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	時々声掛けやノック無しで入室してしまう事もあり。	/	/	/	/	○
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	定期的に研修を開催し、職員全体で学習する機会を設けている。個人情報書類がフロアに点在しないように注意している。	/	/	/	/	/

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	過介護にならないように、出来ることの作業と一緒にいき、共に支え合う暮らしを目標としている。	/	/	/	現在、利用者同士の大きなトラブルは起こっておらず、利用者は穏やかな生活を送ることができている。管理者は、「利用者同士の仲間意識や連帯感が生まれている」と考えている。また、利用者同士の性格や相性もあり、言い合いなどの些細なトラブルが発生した際には、職員は利用者の様子に目を配らせて、早期に利用者の中に入り、話を聞くなどの配慮した対応をしている。訪問調査日には、ソファに座る利用者の中で、昼寝をする利用者の様子が見られるなど、安心して思い思いに過ごすことができている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	職員が利用者間に入りながら、意思疎通の手伝いを行い、お互いが認めあうように働きかけを行っている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	◎	利用者の性格や生きてきた背景を考えながら、利用者、職員同士が支え合う共助の関係を築いている。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	まず職員が間に入りそれぞれのお話を聞くようにしている。その上で暴力での争いにならないように問題解決に努めている。	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	◎	ご家族に利用者本人が好きだった場所なども聞きながら、ドライブの行き先にするなどの工夫をしている。	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていたりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	近隣施設との交流を大切に、旧知の知り合いが再会したり励まし合ったりする環境作りを努めている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	◎	法事や病院受診、ご家族との外出についてはコロナ禍よりも柔軟に対応できるようになっている。庭の散歩や季節のドライブなども希望の行き先を聞きながら配慮している。	x	△	○	感染対策が続き、外出制限が設けられていたが、対策が緩和され、天気の良い日には、近隣にあるコンビニエンスストアまで散歩をして買い物に行ったり、中庭に出て外気浴をしたりするなど、屋外に出て、外気に触れる機会を設けている。また、体調不良の利用者以外は、定期的にドライブに出かけて、季節の花を見に行くなど、気分転換が図れるよう支援している。中には、家族と一緒に、外出や外食を楽しむ利用者もいる。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	◎	大体は家族のサポートですが、協力をして頂いて支援している。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	BPSDについての勉強会を開催したり、学びを深めている。ユニット会では個々の認知症状についての評価を行い不安除去に努めている。	/	/	/	一人ひとりの利用者の認知症状や病状などがアセスメントシートに記載され、職員間で共有している。また、アセスメントシートの中には、手段的日常生活動作の欄が設けられ、「調理なら盛り付けができる、洗濯なら干すことやたたむことができる」など、利用者の個々のできることやできそうなことが記載され、職員間で共有している。また、できることは可能な範囲で自分でもらい、職員は見守りやできない部分を一緒にするなど、必要以上に手や声を出しすぎないような「待つ介護」を心がけている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	定期的にアセスメントを行い、ADLについての評価を話し合っている。日常的にはレクリエーション等に参加して頂いて、機能低下についての予防を行っている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	字を書いたり、絵を書いたり、洗濯物を畳んで頂いたり出来ることを支援し、過介護にならないように気を付けている。	○	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	利用者とのコミュニケーションを図りながら、ユニットでの役割を担って頂き、得意不得意を把握している。	/	/	/	洗濯物干しやたたみ、お盆拭き、モップ拭き、広告折りなど、職員は利用者へ声をかけて、できることや得意な役割を担ってもらえるよう支援している。また、利用者一人ひとりのできることに着目して、好きなことや得意なことを考慮しながら、いずれかの役割を持ってもらい、手伝ってもらった後には、職員から感謝の言葉を伝えるなど、張り合いややりがい、楽しみに繋がるような支援にも努めている。中には、日めくりカレンダーの日付を変えたり、職員と一緒に中庭に出て、草引きや庭木の手入れを手伝ったりする利用者もいる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	ユニット会議を定期的開催し、本人が出来ることを模索し、何らかの出番が持てるように支援している。	○	◎	◎	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	好きな色や気に入った服が利用者ごとにあることを理解し、職員の主観が強くないように気を付けて支援している。	/	/	/	起床時に、自分で服を選んで着替え、身だしなみや整容を整えることのできる利用者もいる。居室内の洗面台で顔を洗ったり、ひげ剃りや寝ぐせなどを直したりしており、職員は利用者に声をかけるとともに、見守りやできない部分のサポートをしている。また、整容の乱れや衣服の汚れが見られた場合には、さりげなく声をかけて寝ぐせなどを直したり、居室に移動して着替えてもらったりするなどの対応をしている。中には、衣類にこだわりのある利用者もおり、気温にそぐわない装いが見られることもあるが、プライドに配慮して、さりげない声かけをするようにしている。さらに、月1回訪問理容の来訪があり、好みの髪型に整えてもらったり、希望があればカラーや白髪染めをしたりすることもできている。重度の状態の利用者にも、楽な姿勢で散髪してもらったり、家族が用意した好みの服を着たりするなど、本人らしさが保てるような身だしなみや清潔保持に努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	◎	本人やご家族の意見を反映させながら支援している。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	生活歴やその時の表情や仕草にも注意しながら、本人の立場に立って物事を考えて支援している。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	外向き、中向きの服装を利用者と一緒に選んだりしながら支援している。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	利用者の気持ちに配慮しながらさりげなく対応している。	○	○	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	◎	ご家族のなじみの店を聞きながら、訪問理容も活用できるように配慮している。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	認知度が上昇して、重ね着などもされている方もいますが、さりげなくフォローして身だしなみを整えている。	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	食事の流れは利用者の五感に働きかける大切な日常ということを理解し、食事形態なども考慮して状態に合わせた支援を行っている。	/	/	/	外部の委託業者から調理済みのレトルトパックの食材が届けられ、職員が湯煎や盛り付けを行い、利用者に食事を提供している。炊飯と汁物作りは、各ユニットのキッチンで職員が行い、利用者から食事の準備や後片付けの様子が見えるとともに、利用者はテーブル拭きやお盆拭きなどのできることを手伝いしている。アレルギーの有無や好みの食材を把握するとともに、月1回程度開催するおやつイベントの際には、ホットプレートでたこ焼きやホットケーキなどを、利用者と職員と一緒に調理することもある。食器類は利用者が持参した使い慣れた物を使用できるほか、事業所で用意した使いやすい物を使用することもできる。調査調査日には、幕の内弁当風に盛り付けができる器で食事の提供が行われ、視覚でも利用者が食事を楽しめるような工夫が行われていた。感染対策もあり、食事の際に、職員は利用者の見守りや声かけ、サポート、水分補給を行い、利用者とは別々に食事を摂るようになっている。外部業者の栄養士が栄養バランスの取れた献立を作成しているものの、月1回法人の管理栄養士が事業所に来訪し、利用者の食事の様子や食事形態を確認するとともに、給食会議の中で、職員間で話し合い、必要に応じて業者に意見や要望を伝えることもある。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	◎	お盆を拭く人、おやつを買い物を一緒に行く人など、役割を創出しながら利用者と一緒にやっている。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	利用者を手伝って頂き、感謝の気持ちをしっかりと伝えることで、達成感を感じて頂く取り組みを行っている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	ご家族からも情報提供して頂き、しっかりとアセスメントを行い、対応している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	基本的なメニューは決まってしまうが、おやつ作りの行事を開催するなど、利用者の希望を取り入れながら季節感あふれる物を提供している。	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	五感に訴えかけられるように、個人の身体の状態に合わせた工夫を行っている。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	家庭的な器を採用し、利用者の希望によっては使い慣れた箸などを利用される方もいる。	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	感染症対策もあるので、一緒に食べることはないが、職員自身の水筒を持って一緒に水分補給の時間を楽しんだりしている。	/	/	○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	五感に訴えかけられるように食事作りの雰囲気は大切に支援している。	◎	/	◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	個人の摂取量には毎日気を付けながら、ご家族に間食なども差し入れて頂きながら支援している。	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	苑で対応できることやご家族に協力して頂きながら支援している。必要であれば医師と相談しながら支援している。	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的な話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	食事についての会議や、管理栄養士の助言を聞きながら支援している。	/	/	◎	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	食中毒に関する研修も定期的に行っている。新鮮な食材を使い食を楽しんで頂いている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	定期的に栄養や口腔ケアについての勉強会を開催し、その重要性を認識して支援している。	/	/	/	歯科医から口腔ケアの適切な方法を学んだり、指示やアドバイスを受けたりするなど、職員は口腔ケアの重要性を理解している。事業所として、全ての利用者に口腔ケアマネジメントを取り入れ、アセスメントシートには食事量や誤嚥の有無、虫歯や義歯、歯茎や舌の状態を詳細に確認して記載することができている。月1回歯科医の往診があり、全ての利用者の口腔内の状況を確認してもらうとともに、異常や訴えのある場合には、速やかに適切な歯科診療に繋げている。また、口腔ケア会議の中で、歯科医からの助言を取り入れた口腔ケアマネジメント計画書の作成も行われている。	
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	定期的に利用者の口腔内のアセスメントを行い把握している。	/	/	/		◎
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	法人内で歯科医を招聘しての勉強会を定期的に開催して、学びを深めている。	/	/	/		/
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	正しい順序で義歯が扱えるように勉強し、支援している。	/	/	/		/
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	◎	毎食後の口腔ケアを行い、口腔内の状況についてもきちんと記録しながら支援している。	/	/	/		◎
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	安易なおむつの使用を控え、排泄の自立を目指しながら支援している。	/	/	/	事業所では、基本的にトイレで利用者が排泄できるよう支援している。現在は、常時おむつを使用している利用者はおらず、職員は一人ひとりの利用者のタイミングや排泄パターンを把握し、こまめな声かけやトイレ誘導をしている。また、利用者の排泄状況に応じて、パッドや紙パンツなどの適切な排泄用品の使用を話し合い、必要に応じて使用や変更をしている。また、排尿や排便の回数は、必要に応じて主治医に報告するとともに、運動や水分摂取等を実施するなど、利用者の自然な排便が促せるように、意識して取り入れている。	
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	定期的に研修を行い理解し取り組んでいる。	/	/	/		/
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	毎日の排泄記録をとることで、おおよそのパターンは把握できている。	/	/	/		/
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	排泄状況についても定期的にユニット会で分析し、ご家族にも相談しながら支援している。	◎	/	/		◎
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	医師と相談しながら対応している。薬だけではなく、生活習慣で改善できる方法をなるべく見つけて支援している。	/	/	/		/
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	利用者個々の状態に合わせて支援している。	/	/	/		/
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	日中や夜間でその形態を変化させている。状態に合わせたもので、画一化したものにならないように配慮している。	/	/	/		/
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	個々に合った適切な物を使用させて頂いている。	/	/	/		/
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	基本は日中の活動を大切に、食事、水分、運動量を含めての計画を行い支援している。	/	/	/		/
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	◎	ご利用者の外出や面会予定に沿って、柔軟に対応している。	◎	/	○	利用者が入浴できる曜日は決めているものの、基本的に週2回利用者が入浴できるよう支援している。利用者の希望に応じて、湯温や湯船に浸かる長さに対応するとともに、体調不良や入浴を拒む場合には、入浴日や時間帯をずらして対応することもある。1階ユニットには、浴槽をまたがずに専用のいすに座ったまま湯船に浸かることができるチェアインバスが設置され、2階ユニットには、左右どちらからでも入浴できる個別浴槽が設置され、利用者の状態に応じて、使い分けをしながら、利用者が安心安全に、気持ちの良い入浴ができるよう支援している。また、シャンプー類は、利用者の好みの物を用意して使用することもできるようになっている。	
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	気持ちよく入浴できるように、会話や環境を工夫しながら取り組んでいる。	/	/	/		
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	出来る事と出来ない事の把握に努めて、出来ない部分を支援するように努めている。	/	/	/		
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ちよく入浴できるよう工夫している。	◎	介助する人を変えたり、時間をずらしたりして柔軟な対応を行っている。	/	/	/		
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前のバイタルチェックを行い、入浴後の水分補給なども毎回行い、確認している。	/	/	/		

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	個々のリズムを把握して支援している。	/	/	/	事業所には、入居前から継続して睡眠導入剤等を服用している利用者があるものの、副作用や状態を観察して主治医に相談し、減薬に繋がった利用者もいる。なるべく薬に頼らないように、主治医と連携を図るとともに、日中に外気浴を取り入れたり、身体を動かしたりするなど、過ごし方の工夫を行い、夜間に利用者が良眠できるよう支援している。中には、夜間に眠れない利用者もあり、お茶やおやつを少し食べてもらったり、職員と眠たくなるまで話をしたりするなど、リラックスできる時間を過ごしてもらうなどの対応をすることもある。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	日中の活動時間や健康状態を把握した上で支援している。	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	医師とも情報共有しながら、なるべく自然睡眠を促させる取り組みを行っている。	/	/	◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	個々の生活リズムを大切に、疲れが見える時には昼間でも休息の時間を取って頂いている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	電話や手紙を郵便に出すなどのご家族等に取り次ぐ支援を行っている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	ご家族へ連絡を取りたい希望もあるので、電話をかけて橋渡しをしている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	共有スペースに電話も有り、いつでも掛けられるようにしている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	届いたら差出人へ到着の旨を連絡し、必ず本人へ手渡している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	認知症状による過度な連絡がキーパーソン自由時間を妨げている人もいるので、連絡回数は適切にさせて頂いている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	定期的に勉強会を行い、お金が及ぼす影響を理解しているが、基本的に金銭は利用者の手元では管理はされていない。	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	◎	コンビニ等へおやつを買いに行くときも有る。その時はお店の方に事前に協力を得ている。	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」など一方向的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	職員側での金銭管理はしていないので、ご家族と外出などをされた際には支援をお願いしている。	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	保管や金銭の取扱いについては、ご家族と話し合い理解して頂いている。	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	過去に利用者同士での金銭管理についてのトラブルがあり、現在は利用者は金銭を手元に持たれていない。ご家族へ説明納得して頂き利用して頂いている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	福祉用具のレンタルや介護タクシーの利用などの支援を随時行っている。柔軟な対応が出来るように支援している。	○	/	○	感染対策が続き、外出や面会の制限が設けられていたが、徐々に緩和され、家族との外出や外食に出かけたり、法事などの行事に参加したりすることも可能となり、利用者に喜ばれている。家族に依頼して、利用者の好きな飲み物やおやつを持参してもらっている。また、利用者や家族から出された要望には、職員間で検討し、可能な範囲で対応をしている。
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	家族駐車場の整備や、玄関周りなど分かりやすく環境を整えている。	◎	○	◎	趣のある邸宅のような玄関周辺は、きれいに手入れされた庭木が植えられ、中庭を挟んだ敷地内にはケアハウスが併設をしている。事業所前の幹線道路の交通量は多く、敷地内のほか、建物の隣に駐車場が整備され、車での来訪もしやすくなっている。また、事業所の玄関のガラスドアから、外の様子の見ることができ、職員は来訪者に気づきやすくなっている。

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	特別変わったことはせず、高齢者の共同生活を考えた上で、過ごしやすい空間作りを行っている。	○	○	○	広々とした明るいリビングは、食事のダイニングスペースのほか、ゆったりとしたソファが並べられたスペースが設けられ、利用者は思い思いの場所で、ゆっくりとくつろぐことができる。また、畳スペースも設けられ、事業所で開催するイベントの際には、ステージとして活用している。さらに、ダイニングを見渡せる広々としたアイランドキッチンが設置され、利用者も気軽にキッチン内を歩き来することができる。加えて、日々掃除や換気が行き届き、加湿器も置かれるなど、清潔で快適な空間となっている。訪問調査日には、利用者と職員と一緒に飾りつけをしたクリスマスツリーがリビングや玄関に置かれ、華やかな雰囲気が感じられた。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	窓からの採光や、定期的な換気を行う上で快適性を提供させて頂いている。			◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	季節感を出すための工夫などを行い、五感に働きかけられるように取り組んでいる。			◎	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	多人数で過ごせたり、一人になって頂くスペースも作りながら支援している。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	入居時に使い慣れたものを持ち込んで頂き、なるべく馴染みの物を使用して過ごして頂いている。	○		○	各居室内には鏡付き洗面台が設置され、利用者は整容や口腔ケアなどの際に、活用している。また、居室にはベッドやミニチェスト、十分に収納できる大きさのクローゼットが備え付けられている。テレビは倒れ、破損する可能性があるために持ち込みを禁止しているが、使い慣れた雑貨類や家族写真などの好きな物を持ち込むことができ、居心地良く過ごせるように配置をしている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	居室やトイレ浴室などを明示し、個々が自立した生活が出来るように配慮している。			◎	リビングを囲むように居室が配置された建物の構造で、居室の入り口に名前や目印を掲示し、利用者に場所や自分の居室が分かりやすいようにしている。また、利用者が混乱しないように、分かりやすくトイレや浴室の表示をするともに、迷う利用者には職員がサポートをしている。2階ユニットには、毎日新聞を読む習慣のある利用者があり、いつでも新聞を手にとれる場所に置いている。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	雑誌、新聞、リモコンなどが手の届くところにあり、いつでも利用者が使用できるように配慮している。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○	身体拘束について定期的に勉強し理解している。安全の為に階段通路等、施錠している所はある。	◎	◎	○	事業所前の幹線道路の交通量が多いこともあり、夜間以外に玄関は外から自由に入ることができるものの、利用者の安全面を考慮して、屋内からは常時開かない建物の構造となっている。階段扉は暗号キーで解錠するとともに、エレベーターもカードキーを使用して解錠してから使用するようになっている。事業所の施錠対応を、入居時に家族に説明して同意を得るとともに、幹線道路の交通量が多く、安心できるとの声も聞かれる。また、外に出たい利用者には、職員と中庭に出て気分転換をしたり、気分が落ち着くようにゆっくりと話を聞いたりするなどの対応をしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	身体拘束をしない取り組みについて、入居時や面会時にご家族と相談や話し合いを行っている。				
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	個別にファイルを作成しており、情報共有している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	利用者の状態について毎日記録し、変化についても記録に残している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	医師とも常に連携を保ちながら情報を今日うしている。入院が必要であれば、診療所の医師からすぐに紹介状も書いてもらったりして速やかに対応している。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	入居時にしっかりとご家族の希望を聞き、馴染みの関係性を継続したり、往診を希望されたりと柔軟に対応している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	それぞれのかかりつけ医師と情報共有を行い、適切な治療が受けられるように配慮している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	記録や申し送り帳を活用し情報共有を行っている。ご家族と合意確認を大切にしながら対応している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院先の病院に対しての情報提供を速やかに行い、ご家族の言葉を代弁して支援している。	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	定期的に先方の職員と連携をとり、経過の情報共有に努め、早期退院を目指した取り組みを行っている。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	医師、看護師と相談しながら毎日の健康管理をサポートしている。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	管理者から看護師、医師と連携が取れる体制をマニュアルを作成して構築している。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	対応マニュアルを備えてスムーズに治療開始できるようにサポート体制を万全にしている。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	入居者の薬情報については、職員全員が共有している。すぐに医師、看護師に情報提供出来るようにしている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	服薬に関するマニュアルを作成し、適切に対応している。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	副作用についての情報を職員全員が共有し、体調の変化については素早く管理者へ報告し、医師まで繋げられるようにしている。	/	/	/	
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	ご家族へ入居時に説明を行い理解して頂いている。状態が変化した時もその先の動きについて相談し、適切な体制を整えている。	/	/	/	事業所では、「重度化した場合における対応にかかる指針」を整備しているものの、看取り支援は行わない方針で、入居時に家族等に説明をしている。状態が変化した場合には、利用者や家族、関係者を交えて話し合い、方針を決定するとともに、他の施設や病院を紹介し、転院をしている。ほとんどの利用者は、法人の協力医が主治医で、定期的な往診で、利用者の体調の管理や確認をするとともに、必要に応じて医師との話し合いや相談ができる体制が整えられている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	医師と定期的に相談できる環境があり、提供医療や介護の相談を随時行っている。	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	◎	グループホームでの生活継続出来る基準を作成し、医師や看護師を含めて相談しながら慎重に対応している。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	契約時や面会時に説明や相談を行い、ご家族としっかりとすり合わせを行いながら支援している。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	状態の変化に合わせての話し合いをチームで行いながら、先を考えた支援を行っている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	利用者一方を支援するのではなく、ご家族のレスパイトにも配慮して声を掛けたり、励ましたりして支援している。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	感染対応マニュアルを作成し、定期的に勉強会を開催しながら業務に臨んでいる。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	対応マニュアルがあり、訓練を繰り返しながら、感染症が発生しても速やかに対応できるように準備している。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	◎	愛媛県のホームページや西条市の通達を全員で情報共有しながら委員会なども開催し、対応している。	/	/	/	
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	衛生的手洗いや感染対策マニュアルを熟読し、訪問者への対応とも含めて準備が出来ている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	日常生活報告書などで利用者の情報もお知らせし、ご家族も巻き込んだ支援を行っている。	/	/	/	感染対策もあり、家族との面会は、玄関フロアで、時間を決めた実施となっている。家族との外出は可能となり、中には、外出や外食を楽しむ利用者もいる。また、月1回利用者ごとの担当職員が、利用者の様子や状況を記載した手紙に併せて、利用者の写真を家族に送付し、近況を伝えている。また、電話連絡時や面会時にも、家族に利用者の状態を伝えている。さらに、運営推進会議の資料を家族に送付し、事業所の行事の様子や職員研修などを周知しているものの、職員の入退職や異動までは報告できておらず、周知方法を職員間で検討していくことを期待したい。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	○	苑内での交流会や行事は積極的に開催出来ていないので、感染症が沈静化している間にそういった機会を増やしていきたい。	△	/	○	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月のお手紙や行事写真を送付してなるべく細かく現況を伝えるようにしている。	◎	/	○	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	面会のたびに認知症状も変化するので、今はどういった状態なのかを細かく説明し、ご家族へ理解して頂いている。	/	/	/	
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	◎	運営推進会議の資料で運営状況を説明して理解を得るようにしている。	×	/	○	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	個々の状態をこまめに報告し、リスクの高い部分については詳しく説明し理解して頂いている。	/	/	/	
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	連絡や面会時の情報伝達をこまめに行い、訪問しやすい関係作りや環境づくりに努めている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	その都度口頭で説明し、書面でも理解して頂き納得を得ている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	ご家族の意向を大切に、双方が納得いくように話し合いを重ねている。	/	/	/	
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	運営推進会議などを活用し報告している。	/	◎	/	令和6年の秋祭りには、地域の子供神輿や獅子舞の来訪があり、中庭で利用者も祭りの雰囲気を楽しむことができた。事業所として、自治会までには入会しておらず、管理者は「地域との関わりが少ない」と感じている。事業所近くのコンビニに利用者がおやつを買いに行く際には、事前にコンビニに電話連絡を入れておやつ在庫を確認してもらったり、店員等と会話をしてつながりを持つようになっている。令和7年からは運営推進会議も対面での開催を再開するため、民生委員等との連携も取りながら地域活動の情報を得て、地域との関わりを深められるような取り組みに期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	近隣施設は行事などの関わりを持ちながら交流させて頂いている。自治会や町内会とのつながりが少ないと感じている。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	買い物途中で声を掛けて頂いたり、挨拶をしたりする関係性は築けている。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	ご家族や親戚の面会はあるが、地域との関わりについては薄く感じる。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	◎	近隣への外出や通りの挨拶はお付き合いがある。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	感染症流行の状況を見ながらドライブや近隣施設との交流を行っている。	/	/	/	
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	◎	理美容や消防署の協力で快適な生活支援や、安全な生活が守られていると感じる。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	書面での開催がほとんどで、積極的には対面開催が出来ていない。	○	/	○	感染対策のため、運営推進会議は書面開催が続いているが、家族全員に事業所の行事や職員研修の内容等を記載した会議資料を送付して、意見や質問を電話連絡時や面会時などに聞いている。質問内容に対する回答は、会議録の中に記載して、家族や市担当者、民生委員等の運営推進会議のメンバーに送付している。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	◎	内部の情報については書面に記載し、ご家族や市への報告を行っている。	/	○	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	書面にてご家族、市役所、地域住民へ現況を報告させて頂いている。	/	△	/	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	理念を作成し共有することで、ご利用者に安心して生活して頂けるように取り組んでいる。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	契約時などにパンフレットなどを見て頂き伝えている。	○	×	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	法的に必要な研修と業務を継続していくために必要な研修を受けられるよう取り組んでいる。	/	/	/	法人代表者である理事長は、事業所の隣にあるケアハウスの施設長を兼務しており、時折事業所に来訪している。月1回程度、各施設・事業所の管理者が集う法人の代表者会議が開催され、職員から出された意見を伝えることができるとともに、運営状況等の情報交換をしている。また、年2回管理者と職員との個別面談が行われ、職員の意見や就業状況等を把握している。さらに、勉強会を実施して、職員のスキルアップにも努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	研修計画を立てて、職員それぞれがスキルアップできるように支援している。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	キャリアアップモデルなどもあるので、入職時や異動時に説明し、やりがいをもち取り組んでもらっている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	◎	グループホーム協会や法人内外でも勉強会を開催し職員のスキルや意識を向上させる取り組みをおこなっている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	面談や懇親会の開催などを開催し、職員のストレス軽減に取り組んでいる。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見過ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	◎	指針の整備や委員会の開催を定期的に行い、職員全員が理解している。	/	/	◎	定期的に虐待防止や不適切ケアの勉強会等を実施するとともに、職員間で具体的な事例を挙げて話し合うなど、理解促進に努めている。また、スピーチロックや言葉遣いについても、日頃から管理者は気になることを職員に伝えて注意喚起を行い、不適切ケアの防止に繋がられるような支援にも努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	毎日の申し送りを聞き、その日の問題はその日のうちに解決できるように取り組んでいる。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	言葉遣いや職員の態度について、毎日確認し点検している。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	勉強会や委員会を定期的に行い、職員全員が理解している。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	定期的に委員会を開催し、ユニットの現状についての取り組みを報告し合う場所を作り、自分たちの対応を振り返っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	拘束のないケアについての理解を促し、理解を図っている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	◎	内部研修で勉強会を開催し、職員全員で理解を深めている。	/	/	/	
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	◎	利用者や家族の状況を把握しながら、関係各所へ相談できる体制は築けている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	緊急時のマニュアルを作成し対応している。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	◎	緊急時対応についての研修会を定期的に行い、対応力を養っている。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一步手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	事故やヒヤリハット報告書を作成し、大きな事故が起こらないように事前に事故防止が出来るツールとして活用している。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	利用者個々の状態を把握しておき、それぞれに必要な措置を。その時の場面で考えて取り組んでいる。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	◎	マニュアルを作成し、定期的に勉強会を行い検討している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	マニュアルを作成し、報告出来るように体制を作っている。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	ご家族と向き合いながら、双方の落としどころを見つけながら適切に対応している。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	苦情BOXを作成したり、受付窓口を重要事項説明書等に記載して説明をしている。	○	/	◎	日々の関わりの中で、職員は利用者から意見や要望を聞いたり、会話や表情などから、思いをくみ取ったりするなど、可能な範囲で対応をしている。面会時や電話連絡時等を活用して、職員から利用者の近況を伝え、意見や要望を聞くよう努めている。また、管理者は職員から意見や提案が伝えやすいような雰囲気づくりに努め、業務の終了時に声をかけて、意見を聞いたり、相談に応じたりしている。職員も管理者に利用者のことや業務の相談を行いやすいと感じている。
		b	契約当初だけでなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	契約時に重要事項説明書に数カ所の公的機関を紹介し、施設には言いにくい事は公的機関へ行って頂くように伝えている。	/	/	/	
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	定期的に訪問し、意見を聞く機会を作っている。	/	/	/	
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	いつでも話を聞く体制を作っており、利用者に資するものについては積極的に検討し取り入れるように努めている。	/	/	◎	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	全職員で行い目的を理解している。	/	/	/	外部評価の評価結果は家族に報告しているものの、書面での報告のみに留まっているため、今後は、集合形式の運営推進会議等を活用して、評価結果を報告して意見をもらったり、外部評価の意義や目的を説明したりするなど、出された意見をサービスの質の向上に繋げていくことも期待される。また、家族や会議の参加メンバーに協力を呼びかけて、目標達成の取り組み状況を確認してもらい、意見や助言をもらえるように、周知方法を職員間で検討していくことも期待される。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	◎	今の課題を職員全員で共有し、改善できるように取り組んでいる。	/	/	/	
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	◎	報告を行い、取り組み状況の意見を頂いている。	○	△	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	◎	資料を作成し運営推進会議にて状況を報告している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	BCPや防災マニュアルを作成し、いつでも閲覧できるようにしている。	/	/	/	消防署の協力を得て、火災などを想定した避難訓練を実施している。令和6年6月には河川の増水、11月には地震の設定を行い、隣接するケアハウスとの合同訓練を実施している。ケアハウスとの連携や協力体制は構築できているものの、地域住民や家族の訓練の参加や、災害時の対応を話し合う機会までは設けることができていないため、運営推進会議の開催に合わせて、避難訓練を実施したり、家族や会議の参加メンバーと意見交換や話し合う機会を設けたりするなど、少しずつ災害時の協力体制の構築に向けた取り組みが行われることを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	避難経路を考えながら、様々な想定を設定して取り組んでいる。	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	備蓄を行いながら、設備点検も行き安全対策に努めている。	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	近隣施設と合同で訓練を行い、消防署からの指導等も受けながら、訓練機会を確保している。	×	×	△	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	地域の方を招聘した訓練は実現できていないが、消防署や近隣施設との連携をしながら訓練している。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	市内の病院や居宅に対して、ケアの内容や行事の情報を発信し取り組みを行っている。	/	/	/	地域住民から、入居相談等が寄せられた場合には、快く対応するとともに、必要に応じて適切な関係機関に繋いでいる。法人・事業所として、外国人の技能実習生等の受け入れに協力をしている。また、平時から市行政や地域包括支援センターなどの関係機関と情報交換を行うなど、連携を図っている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	◎	飛び込みでの入居相談等もあるが、傾聴して適切な各関係機関へ繋ぐようにしている。	/	△	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	行事やイベントで交流の場所として機能させている。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	◎	外国人技能実習や学生ボランティアの招聘しての行事などの協力を行っている。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	◎	他の事業所との連携を大切にしながら運営を行っている。	/	/	○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和6年12月5日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 10名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	3名	

※事業所記入

事業所番号	3871200329
事業所名 (ユニット名)	グループホーム鶴翠 2階ユニット
記入者(管理者) 氏名	芝 博文
自己評価作成日	令和6年11月1日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】</p> <p>「こころを込めて、ともに笑顔を」認知症という病気から自宅での生活が困難になったご利用者に「もうひとつの家」として頂けるような環境を作り、本来の自分らしい生活が出来る事を目的に尊厳を大切にされた支援を行います。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>課題①災害への備えに関して、地域を巻き込んだ訓練が出来ておらず、緊急時の対応に不安あり。 目標: 地域との協力、支援体制の構築を行う。 結果: 同一敷地内のケアハウスの職員や入居者と連携をとっての訓練は出来たが、ご家族や地域住民の参加は促して取り組むことが出来なかった。感染対策を意識し過ぎて閉鎖的になってしまっているため、地域に開けた取り組みを行っていく必要があると感じている。 課題②介護計画に基づいた日々の具体的記録が出来ていない。 目標: 利用者個々の重点課題を見直し、本来の自立支援に沿ったケアを実践し、記録することで、利用者の機能回復が一つでも多く報告出来るようにする。 結果: 利用者個々の口腔ケアと周辺症状に関する取り組みを強化しており、第三者が見ても理解しやすい記録を目指している。しかし、業界の専門用語などの分かりにくい記述もあるので、そういった部分を少しずつ修正しながら前回よりも記述内容は向上してきたと感じている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>開設から20年が経過した事業所は、敷地内にケアハウスが隣接されている。中庭が設置され、日頃から利用者は散歩したり、職員と一緒に庭の手入れをしたりするなど、ケアハウスの利用者との交流も図られている。法人は西条市を中心に、特別養護老人ホームなどの施設や介護サービス事業所を多く展開し、地域から認知されている。開設から長年が経過しているものの、年数を感じさせない事業所の構造や清潔な空間が保たれ、広々とした明るいきらびのほかに、各居室に洗面台も完備されるなど、個別に整容や口腔ケアを行うことができるなど、生活を送りやすい空間となっている。また、歯科医から指示やアドバイスを受けて、口腔ケアの重要性を理解するとともに、内部研修を実施して、職員は口腔ケアの適切な方法を学んでいる。全ての利用者に口腔ケアマネジメントを取り入れ、月1回歯科医の往診があるなど、約2年前から口腔ケアに力を入れた取り組みが行われている。さらに、管理者は、「利用者の尊厳を大切にケアを実施してほしい」との思いがあり、日頃から職員に一人ひとりの利用者に対して、コミュニケーションを図る時間を持つよう伝えている。加えて、感染対策で運営推進会議の書面開催が続いていたが、令和7年から集合形式の会議再開が予定され、会議を通して、地域住民や家族と関わりながら、少しずつ地域との交流や繋がりがりづくりの取り組みが行われていくことも期待される。</p>
--	---	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	ご家族からの聞き取りをこまめに行い、本人の思いを汲み取りながら把握に努めている。	○	/	◎	入居時に、職員は利用者や家族から暮らし方の希望や意向を聞いて把握するとともに、入居後にも、新たな情報の把握に努めている。毎月、利用者や家族の意向のほか、大切に思うこと、喜びに感じることなどの情報を更新している。中には、思いや意向を伝えるに難しい利用者もあり、表情や動作などから思いをくみ取ったり、家族から情報を聞いたり、今までの暮らし方の情報を参考にして、より良いサービスの提供に努めている。
b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	職員視点にならないように、ユニットでの話し合いを密に行い検討している。	/	/	/	/		
c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	ご家族と定期的に連絡を取り、コミュニケーションをとりながら本人の思いを大切にしている。	/	/	/	/		
d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	申し送りノートやケース記録を活用し共有している。	/	/	/	/		
e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	◎	定期的にユニット会議を開催して本人にとっての気持ちを大切にしている。	/	/	/	/		
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	契約前の面接情報をもとに、入居されてからもご家族に聞きながら対応している。	/	/	◎	入居前に、職員は病院や自宅等を訪問して利用者や家族と面談を行い、生活歴や生活環境、暮らし方、こだわりなどの情報の聞き取りをしている。また、病院や施設の関係者のほか、居宅介護支援事業所の介護支援専門員から、少しでも多くの情報収集に努めている。把握した情報は、整理して面談記録票に記載し、職員間の情報共有に努めている。アセスメントシートには、趣味の項目の欄が設けられ、趣味や好きなことなども記載されている。
b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	毎月のユニット会議で課題について話し合い、現状の把握に努めている。	/	/	/	/		
c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	◎	常に状況の変化があることを念頭において、変化したことは申し送りで共有し、記録している。	/	/	/	/		
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	ご本人の状況を分析し、現状において必要としている事を課題として捉えて支援している。	/	/	◎	利用者や家族のほか、医師等の関係者から情報を得て、利用者が何を求め、どのような支援が必要なのかを利用者の視点に立って検討している。アセスメントシートには、利用者が大切に思うことや喜びを感じることを、やりたいことが記載され、より良く暮らすための課題の把握や解決にも努めている。
b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	◎	毎月のアセスメントをしっかり行い、課題の把握に努めている。	/	/	/	/		
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	利用者の思いは汲み取るように努力しているが、全てが思い通りにはいってない部分もある。	/	/	/	利用者や家族から意見や希望を聞くほか、主治医や看護師から指示や助言をもらい、アセスメント情報や把握した情報をもとに、職員から意見やアイデアを出し合いながら話し合い、計画作成担当者が介護計画の原案を作成し、管理者が計画の最終確認をしている。また、利用者等の意見を反映した計画作成に努めている。さらに、認知症の行動・心理症状質問票(BP SDシート)を活用して、全ての利用者の現状を毎月確認するとともに、認知症の症状や状態を数値化して課題分析を行い、必要に応じて計画に反映させている。
b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	ご家族などには面会時にケアについての相談を行いながら、計画を立てるようにしている。	○	/	/	◎		
c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	重度化しても、その人の思いを捉えて、元気な頃と変わらない支援を行っている。	/	/	/	/		
d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	地域交流や家族の意見も反映して計画に盛り込んでいる。	/	/	/	/		

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	計画内容をいつでも閲覧しながら確認し、職員間でも共有している。	/	/	/	○ ユニット会議等の中で、介護計画の内容を話し合うとともに、職員は一人ひとりの利用者の計画を確認し、内容の把握に努めている。また、ケアプラン行動計画チェック表を活用して、日中と夜間の2回、計画のサービス内容に沿ったケアの実践の有無を記録に残している。チェック表には同じ記載内容が続いているのが見受けられたため、今後はケアの実践の有無を○×で記載し、実施できなかった日には、その理由をケア記録に記載するなど、よりモニタリングに繋げやすく、簡略化した記録が残せるように、職員間で検討していくことも期待される。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	毎日の記録が同じようになっている事も有るので、もう少し具体性をもった記述が必要と感ずることもある。	/	/	/	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	長期と短期の期間を確認しながら見直しをしている。	/	/	/	◎ 6か月に1回モニタリングを実施して評価を行うとともに、介護計画の見直しをしている。月1回実施するユニット会の中で、全ての利用者の現状を確認するとともに、課題を検討している。また、利用者の状態に変化が生じた場合には、家族や医師に報告するとともに、必要に応じて職員間で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月のユニット会議を開催して現状の確認を行っている。	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	利用者の状態が変化すれば担当者会議を開催し、状態に即した計画に変更している。	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	緊急時はいつでも会議を開催して問題解決に努めている。	/	/	/	◎ 月1回ユニット会議を実施し、利用者の現状確認や課題解決などの話し合いをするとともに、別日に両ユニット合同で職員会議を実施し、意見交換や情報共有を図っている。参加できなかった職員には、後日議事録を確認してもらい、内容を共有している。また、緊急案件が生じた場合は、その日の出勤職員で話し合い、後日記録や口頭で他の職員に伝達をしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	管理者、介護、看護、実習生が参加し全員が発言出来るように進行している。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	◎	参加できない職員には議事録を作成しているので、閲覧してもらい、話し合った内容を共有している。	/	/	/	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送りのノートに記述忘れがあったり、確認忘れも時折ある。	○	/	○	○ 職員の勤務交代時に、日々の記録等を活用して、申し送りを実施している。また、申し送り帳は職員の更衣室前に置かれ、出勤時に職員は必ず確認する仕組みづくりができています。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	◎	毎日の基本的な日課があるが、利用者の要望には柔軟に対応している。	/	/	/	◎ 起床時に、自分で服を選んで着替えることができる利用者もいる。自分で選ぶことが難しい利用者には、二者択一に選択肢を絞って提示し、職員から声かけをして、表情やしぐさ、視線等を観察して、選択や自己決定ができるよう支援している。また、おやつや飲み物、レクリエーションの時間帯や参加の有無など、様々な場面で職員は利用者に声かけをしている。職員は、「業務に追われていると、利用者とのコミュニケーションを図る時間が十分にとれていない」と考えているものの、レクリエーションの際などに、利用者に話しかけるなど、活き活きした表情や言動が引き出せるような支援を心がけている。管理者は、「職員の出勤時に、一人ひとりの利用者に挨拶をして、一言でも声かけをしてほしい」との思いがあり、職員の声かけが、その日の利用者の状態確認にもつながると、職員に継続して伝達している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	おやつや洋服の選択などは利用者を選んで頂くように支援している。	/	/	/	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	利用者のペースに合わせての支援を行っている。	/	/	/	
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	○	入浴介助時などの対面の場面では、ゆっくりと会話を行い様々な表情を見ることが出来る。	/	/	/	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	表情や仕草を交えながら意向を聞き出す工夫をしながら支援している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	○	職員ペースでの言葉掛けになることもあるので、自制しながら気を付けている。基本の尊厳は大切にしている。	○	◎	○	○ 入職時のオリエンテーションの中に、利用者の尊厳や人権等を学ぶ機会が設けられ、職員の理解促進に努めている。日頃から、管理者は利用者のプライバシーに配慮した声かけや言葉遣いの具体例を挙げて指導をするとともに、職員自身がされたらどうかという立場に置き換えて考える機会を設けるなど、職員は日々の業務を振り返りながら、意識したより良い支援や言動に努めている。また、職員は利用者の居室をプライバシーのある空間と理解しているものの、居室内に利用者がある場合にも、つい声かけやノックを忘れて入室してしまう職員も見られるため、職員全員への周知徹底を図り、統一した対応が行われることを期待したい。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	他者から見えない工夫や言われて恥ずかしい言葉について、人の立場に立って物事を考えるようにしている。	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	忙しさに負けて、時々礼儀を忘れてしまうこともある。	/	/	/	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	職員会議で学習し理解している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	ご利用者に感謝の意向を伝えながら、お互いに助け合う関係性を築いている。	/	/	/	現在、利用者同士の大きなトラブルは起こっておらず、利用者は穏やかな生活を送ることができている。管理者は、「利用者同士の仲間意識や連帯感が生まれている」と考えている。また、利用者同士の性格や相性もあり、言い合いなどの些細なトラブルが発生した際には、職員は利用者の様子に目を配らせて、早期に利用者の中に入り、話を聞くなどの配慮した対応をしている。訪問調査日には、ソファに座る利用者の中で、昼寝をする利用者の様子が見られるなど、安心して思い思いに過ごすことができている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	役割を持って頂きながら、支え合う事の大切さを理解している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらつ場面をつくる等)。	◎	様々な背景があることを理解し、集団が好きな人や1人が好きな人など性格を把握して、関係性が上手に保てるように支援している。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	職員が間に入り、トラブル解消に努めている。	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	◎	本人やご家族の意見を傾聴し、趣向を聞き出せるようにしている。	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	◎	面会などの時間を大切に頂き、支えられてきた人との関係性を大切に支援している。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	◎	時節や天候を勘案しながら、戸外への散歩などの支援を出来る限り行っている。	×	△	○	感染対策が続き、外出制限が設けられていたが、対策が緩和され、天気の良い日には、近隣にあるコンビニエンスストアまで散歩をして買い物に行ったり、中庭に出て外気浴をしたりするなど、屋外に出て、外気に触れる機会を設けている。また、体調不良の利用者以外は、定期的にドライブに出かけて、季節の花を見に行くなど、気分転換が図れるよう支援している。中には、家族と一緒に、外出や外食を楽しむ利用者もいる。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	◎	ご家族との外出の時間を大切に、外出支援を進めている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	定期的に勉強会を開催し、認知症の行動についての知識を磨いている。	/	/	/	一人ひとりの利用者の認知症状や病状などがアセスメントシートに記載され、職員間で共有している。また、アセスメントシートの中には、手段的日常生活動作の欄が設けられ、「調理なら盛り付けができる、洗濯なら干すことやたたむことができる」など、利用者の個々のできることやできそうなことが記載され、職員間で共有している。また、できることは可能な範囲で自分でもらい、職員は見守りやできない部分を一緒にするなど、必要以上に手や声を出しすぎないような「待つ介護」を心がけている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	個々の状態をしっかり把握し、日常の中で機能維持が図れるように支援している。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	残存機能を重視して、過介護にならないように取り組んでいる。	○	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	本人やご家族にコミュニケーションを取りながら、把握に努めている。	/	/	/	洗濯物干しやたたみ、お盆拭き、モップ拭き、広告折りなど、職員は利用者へ声をかけて、できることや得意な役割を担ってもらえるよう支援している。また、利用者一人ひとりのできることに着目して、好きなことや得意なことを考慮しながら、いずれかの役割を持ってもらい、手伝わってもらった後には、職員から感謝の言葉を伝えるなど、張り合いややりがい、楽しみに繋がるような支援にも努めている。中には、日めくりカレンダーの日付を変えたり、職員と一緒に中庭に出て、草引きや庭木の手入れを手伝ったりする利用者もいる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	本人の役割は重度化しても必ず見つけられることを念頭におき支援している。	○	◎	◎	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	職員が間違いを指摘するのではなく、さりげなく対応して本人の思いを踏みにじることはないように配慮している。				起床時に、自分で服を選んで着替え、身だしなみや整容を整えることのできる利用者もいる。居室内の洗面台で顔を洗ったり、ひげ剃りや寝ぐせなどを直したりしており、職員は利用者へ声をかけるとともに、見守りやできない部分のサポートをしている。また、整容の乱れや衣服の汚れが見られた場合には、さりげなく声をかけて寝ぐせなどを直したり、居室に移動して着替えてもらったりするなどの対応をしている。中には、衣類にこだわりのある利用者もおり、気温にそぐわない装いが見られることもあるが、プライドに配慮して、さりげない声かけをするようにしている。さらに、月1回訪問理容の来訪があり、好みの髪型に整えてもらったり、希望があればカラーや白髪染めをしたりすることもできている。重度の状態の利用者にも、楽な姿勢で散髪してもらったり、家族が用意した好みの服を着たりするなど、本人らしさが保てるような身だしなみや清潔保持に努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	◎	本人に声掛けしながら、職員主体にならないように支援している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	質問の仕方を考えたり、物を見せて選択して頂いたり、工夫しながら対応している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	季節やその人の生活習慣を大切に支援している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしながらさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	職員が大きな声で指摘することが人を傷つけることになるという事を理解して支援している。	○	○	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	◎	行きつけの店や訪問利用など、好きな方を選択して頂いている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	それらしい服装になるように、さりげなく支援している。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	作成の過程や食事のおいなどで、利用者が感じる感情を大切にしている。				外部の委託業者から調理済みのレトルトパックの食材が届けられ、職員が湯煎や盛り付けを行い、利用者に食事を提供している。炊飯と汁物作りは、各ユニットのキッチンで職員が行い、利用者から食事の準備や後片付けの様子が見えるとともに、利用者はテーブル拭きやお盆拭きなどのできることを手伝いしている。アレルギーの有無や好みの食材を把握するとともに、月1回程度開催するおやつイベントの際には、ホットプレートでたこ焼きやホットケーキなどを、利用者と職員と一緒に調理することもある。食器類は利用者が持参した使い慣れた物を使用できるほか、事業所で用意した使いやすい物を使用することもできる。調査調査日には、幕の内弁当風に盛り付けができる器で食事の提供が行われ、視覚でも利用者が食事を楽しめるような工夫が行われていた。感染対策もあり、食事の際に、職員は利用者の見守りや声かけ、サポート、水分補給を行い、利用者とは別に食事を摂るようになっていく。外部業者の栄養士が栄養バランスの取れた献立を作成しているものの、月1回法人の管理栄養士が事業所に来訪し、利用者の食事の様子や食事形態を確認するとともに、給食会議の中で、職員間で話し合い、必要に応じて業者に意見や要望を伝えることもある。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	◎	おやつなどを利用者と購入しに外出することもある。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	テーブル吹きや、お盆ふきなどの役割を担って頂き、役割感をもって日常を過ごして頂いている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	最初の面会の時にご家族から聞き出して把握している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	業者で作られたものを提供しているが、おやつイベントなどを行い、好きな物や季節の物を召し上がって頂いている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	利用者の状態に応じてその都度変化に対応させて頂いている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	使い慣れたものや一般的な食器を使用させて頂いている。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	一緒に食べてはいないが、近くで見守りを行い、声掛けやむせ込みの対応がすぐ出来るように準備している。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	食事前後の雰囲気も大切に、配慮している。	◎		◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	偏食の方には、ご家族に好きな物を持ってきて頂き、捕食して頂くなどの工夫を行っている。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	状態に応じて食事形態に工夫を行い、医師とも相談しながら捕食の検討も行き支援している。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	口腔栄養スクリーニングを行い、体重管理などしながら栄養士にも助言をもらいながらケアを行っている。			◎	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	定期的に研修をして理解を深めながら、安全管理を行っている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	勉強会を開催し、誤嚥性肺炎予防の重要性は理解している。	/	/	/	◎ 歯科医から口腔ケアの適切な方法を学んだり、指示やアドバイスを受けたりするなど、職員は口腔ケアの重要性を理解している。事業所として、全ての利用者に口腔ケアマネジメントを取り入れ、アセスメントシートには食事量や誤嚥の有無、虫歯や義歯、歯茎や舌の状態を詳細に確認して記載することができている。月1回歯科医の往診があり、全ての利用者の口腔内の状況を確認してもらうとともに、異常や訴えのある場合には、速やかに適切な歯科診療に繋げている。また、口腔ケア会議の中で、歯科医からの助言を取り入れた口腔ケアマネジメント計画書の作成も行われている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	定期的に口腔内のアセスメントを行い把握に努めている。	/	/	/	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	歯科医の研修会に出席し、ケアの方法を共有している。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	義歯の着脱の仕方を全員で学び、適切に支援している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	◎	毎食後の口腔ケアを行い、口腔内の観察や記録を行い情報共有している。	/	/	◎	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	安易なおむつの装着が認知症の進行を早めることを理解し、他の可能性がないか探りながら支援している。	/	/	/	事業所では、基本的にトイレで利用者が排泄できるよう支援している。現在は、常時おむつを使用している利用者はおらず、職員は一人ひとりの利用者のタイミングや排泄パターンを把握し、こまめな声かけやトイレ誘導をしている。また、利用者の排泄状況に応じて、パッドや紙パンツなどの適切な排泄用品の使用を話し合い、必要に応じて使用や変更をしている。また、排尿や排便の回数は、必要に応じて主治医に報告するとともに、運動や水分摂取等を実施するなど、利用者の自然な排便が促せるように、意識して取り入れている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	定期的に研修を行い理解し取り組んでいる。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	利用者の排泄記録を毎日とることで、パターンを共有している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	適切なオムツの種類が使用されていることを常に見直し、現状に即した物を使用している。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	医師や看護師を交えて相談し、自然排泄が促せるように取り組んでいる。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	利用者個々の状態に合わせて支援している。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういつ時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	夜間と日中で使用状況が変化するので、状況に応じた対応を行っている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	利用者個々の状態に合わせて選択している。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	自然な排泄が促させることが一番良い事と認識して、日中の運動を促すなどの取り組みを行っている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	◎	個別の浴槽で、ゆっくりと入浴が出来るように支援している。	◎	/	○	利用者が入浴できる曜日は決めているものの、基本的に週2回利用者が入浴できるよう支援している。利用者の希望に応じて、湯温や湯船に浸かる長さに対応するとともに、体調不良や入浴を拒む場合には、入浴日や時間帯をずらして対応することもある。1階ユニットには、浴槽をまたがずに専用のいすに座ったまま湯船に浸かることができるチェアインバスが設置され、2階ユニットには、左右どちらからでも入浴できる個別浴槽が設置され、利用者の状態に応じて、使い分けをしながら、利用者が安心安全に、気持ちの良い入浴ができるよう支援している。また、シャンプー類は、利用者の好みの物を用意して使用することもできるようになっている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	雰囲気大切に、リラックスできる声掛けをしながら支援している。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	残存機能を活かしながら支援している。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	認知症への理解を深め、順番や介助者を変更するなどの柔軟な対応を行っている。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前のバイタル測定や、終了後の表情なども確認しながら支援している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	夜間の記録をしっかりととり、データを共有しながら把握に努めている。	/	/	/	事業所には、入居前から継続して睡眠導入剤等を服用している利用者があるものの、副作用や状態を観察して主治医に相談し、減薬に繋がった利用者もいる。なるべく薬に頼らないように、主治医と連携を図るとともに、日中に外気浴を取り入れたり、身体を動かしたりするなど、過ごし方の工夫を行い、夜間に利用者が良眠できるよう支援している。中には、夜間に眠れない利用者もおり、お茶やおやつを少し食べてもらったり、職員と眠たくなるまで話をしたりするなど、リラックスできる時間を過ごしてもらうなどの対応をすることもある。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	無理せずに日中と夜間の睡眠時間のバランスを取りながら、生活リズムを調整する工夫をしている。	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	パソコンのシステムを使用してデータを見ながら、医師と相談しながら対応している。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	体調や表情を見ながらその日の状態に応じて、柔軟に支援している。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	はがきのポストへの投函や、電話での支援が出来るようにしている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	受話器を持って頂いて話す事は出来るので、それまでの準備などの支援は行っている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	いつでも連絡できるようにしているが、家族都合も考えながら配慮している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	利用者にはがきをお渡しし、返信の投函のお手伝いなどを行っている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	ご家族に協力を求めながら対応させて頂いている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	金銭は利用者の皆様は持たれていない。勉強会で金銭がもたらす影響について理解は出来ている。	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	◎	買い物先の職員の方の協力を得ながら支援している。	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	苑での金銭管理については遠慮させて頂いている。	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	保管や金銭の取扱いについては、ご家族と話し合い理解して頂いている。	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	過去に利用者同士での金銭管理についてのトラブルがあり、現在は利用者は金銭を手元に持たれていない。ご家族へ説明納得して頂き利用して頂いている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	福祉用具のレンタルや介護タクシーの利用などの支援を随時行っている。柔軟な対応が出来るように支援している。	○	/	○	感染対策が続き、外出や面会の制限が設けられていたが、徐々に緩和され、家族との外出や外食に出かけたり、法事などの行事に参加したりすることも可能となり、利用者に喜ばれている。家族に依頼して、利用者の好きな飲み物やおやつを持参してもらっている。また、利用者や家族から出された要望には、職員間で検討し、可能な範囲で対応をしている。
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	家族駐車場の整備や、玄関周りなど分かりやすく環境を整えている。	◎	○	◎	趣のある邸宅のような玄関周辺は、きれいに手入れされた庭木が植えられ、中庭を挟んだ敷地内にはケアハウスが併設をしている。事業所前の幹線道路の交通量は多く、敷地内のほか、建物の隣に駐車場が整備され、車での来訪もしやすくなっている。また、事業所の玄関のガラスドアから、外の様子の見ることができ、職員は来訪者に気づきやすくなっている。

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	季節感やその時期に合わせての装飾を適度に行っている。	○	○	○	広々とした明るいリビングは、食事のダイニングスペースのほか、ゆったりとしたソファが並べられたスペースが設けられ、利用者は思い思いの場所で、ゆっくりとくつろぐことができる。また、畳スペースも設けられ、事業所で開催するイベントの際には、ステージとして活用している。さらに、ダイニングを見渡せる広々としたアイランドキッチンが設置され、利用者も気軽にキッチン内を行き来することができる。加えて、日々掃除や換気が行き届き、加湿器も置かれるなど、清潔で快適な空間となっている。訪問調査日には、利用者と職員と一緒に飾りつけをしたクリスマスツリーがリビングや玄関に置かれ、華やかな雰囲気が感じられた。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日の清掃を行い、換気にも配慮している。	/	/	◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	利用者の皆様が心地よく過ごせるように生活空間を整えることを工夫しながら取り組んでいる。	/	/	◎	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	色々な場所にソファや椅子を設置し、一人でもくつろげる場所を設けて対応している。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	可能な限り慣れたものを使用して頂きながら生活して頂いている。	○	/	○	各居室内には鏡付き洗面台が設置され、利用者は整容や口腔ケアなどの際に、活用している。また、居室にはベッドやミニチェスト、十分に収納できる大きさのクローゼットが備え付けられている。テレビは倒れ、破損する可能性があるために持ち込みを禁止しているが、使い慣れた雑貨類や家族写真などの好きな物を持ち込むことができ、居心地良く過ごせるように配置をしている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	目印などを作成して工夫しながら利用者が自立した生活が可能な限り出来るように工夫している。	/	/	◎	リビングを囲むように居室が配置された建物の構造で、居室の入り口に名前や目印を掲示し、利用者に場所や自分の居室が分かりやすいようにしている。また、利用者が混乱しないように、分かりやすくトイレや浴室の表示をするともに、迷う利用者には職員がサポートをしている。2階ユニットには、毎日新聞を読む習慣のある利用者があり、いつでも新聞を手にとれる場所に置いている。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうし、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	安全に配慮した上で日常的に必要な器具は配置して使用して頂いている。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○	安全を考慮して電子ロックを行っている箇所もある。職員が付き添いながら、外出への対応などを支援している。	◎	◎	○	事業所前の幹線道路の交通量が多いこともあり、夜間以外に玄関は外から自由に入ることができるものの、利用者の安全面を考慮して、屋内からは常時開かない建物の構造となっている。階段扉は暗号キーで解錠するとともに、エレベーターもカードキーを使用して解錠してから使用をするようになっている。事業所の施錠対応を、入居時に家族に説明して同意を得るとともに、幹線道路の交通量が多く、安心できるとの声も聞かれる。また、外に出たい利用者には、職員と中庭に出て気分転換をしたり、気分が落ち着くようにゆっくりと話を聞いたりするなどの対応をしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	面接や契約の最初の段階で、ご家族へ理解を図っている。	/	/	/	
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	個々のファイルを作成し、既往歴や現病歴を確認しながら支援している。	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	日々の記録をしっかりと記述し、異変があれば申し送りノートにも記述してすぐに情報共有して安全確保に努めている。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	医師や看護師に気軽に相談できる体制になっており、必要であれば医師から大きな病院へ紹介状を書いてもらい、早急に対応できるようにしている。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	面接時にしっかりと聞き取りを行い、本人と家族の希望する医療機関へ受診して頂いている。	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	適切な医療が受けられるように、それぞれの係りつけ医と情報を共有している。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	日常や緊急時の取り決めをそれぞれの家族と話し合いながら、個々の対応についてしっかりと話し合いを繰り返しながら対応している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	苑内での生活状況について、先方の医療機関に情報提供し、入院先の介護者が困らないように配慮している。	/	/	/	事業所では、「重度化した場合における対応にかかる指針」を整備しているものの、看取り支援は行わない方針で、入居時に家族等に説明をしている。状態が変化した場合には、利用者や家族、関係者を交えて話し合い、方針を決定するとともに、他の施設や病院を紹介し、転院をしている。ほとんどの利用者は、法人の協力医が主治医で、定期的な往診で、利用者の体調の管理や確認をするとともに、必要に応じて医師との話し合いや相談ができる体制が整えられている。
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	早期退院が出来るように先方の相談員と密に連携を取ることに努めている。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	ユニット会議で看護職とも情報を共有し、医師への相談が必要な部分に関しては、管理者も入り協力医療機関へ連携をとるようにしている。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	24時間のオンコール体制が構築されている。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	緊急時対応マニュアルを作成して体制を整えている。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	薬情報についても全職員が共有し、薬剤の効果についての報告も医師へスムーズに情報共有できるように取り組んでいる。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	しっかりと服薬できるようにマニュアルを作成し取り組んでいる。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	副作用についての情報を職員全員が共有し、体調の変化については素早く管理者へ報告し、医師まで繋げられるようにしている。	/	/	/	
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	重度化についての話し合いも定期的に行い、現状の利用者の状態について話し合い、それを家族とも共有している。	/	/	/	
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	医師と定期的に相談できる環境があり、提供医療や介護の相談を随時行っている。	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	◎	グループホームでの生活継続出来る基準を作成し、医師や看護師を含めて相談しながら慎重に対応している。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	契約時や面会時に説明や相談を行い、ご家族としっかりとすり合わせを行いながら支援している。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	状態の変化に合わせての話し合いをチームで行いながら、先を考えた支援を行っている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	利用者一方を支援するのではなく、ご家族のレスパイトにも配慮して声を掛けたり、励ましたりして支援している。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	感染対応マニュアルを作成し、定期的に勉強会を開催しながら業務に臨んでいる。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	対応マニュアルがあり、訓練を繰り返しながら、感染症が発生しても速やかに対応できるように準備している。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	◎	愛媛県のホームページや西条市の通達を全員で情報共有しながら委員会なども開催し、対応している。	/	/	/	
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	衛生的な手洗いや感染対策マニュアルを熟読し、訪問者への対応とも含めて準備が出来ている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	日常生活報告書などで利用者の情報もお知らせし、ご家族も巻き込んだ支援を行っている。	/	/	/	感染対策もあり、家族との面会は、玄関フロアで、時間を決めた実施となっている。家族との外出は可能となり、中には、外出や外食を楽しむ利用者もいる。また、月1回利用者ごとの担当職員が、利用者の様子や状況を記載した手紙に併せて、利用者の写真を家族に送付し、近況を伝えている。また、電話連絡時や面会時にも、家族に利用者の状態を伝えている。さらに、運営推進会議の資料を家族に送付し、事業所の行事の様子や職員研修などを周知しているものの、職員の入退職や異動までは報告できておらず、周知方法を職員間で検討していくことを期待したい。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	○	苑内での交流会や行事は積極的に開催出来ていないので、感染症が沈静化している間にそういった機会を増やしていきたい。	△	/	○	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月のお手紙や行事写真を送付してなるべく細かく現況を伝えるようにしている。	◎	/	○	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	面会のたびに認知症状も変化するので、今はどういった状態なのかを細かく説明し、ご家族へ理解して頂いている。	/	/	/	
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	◎	運営推進会議の資料で運営状況を説明して理解を得るようにしている。	x	/	○	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	◎	個々の状態をこまめに報告し、リスクの高い部分については詳しく説明し理解して頂いている。	/	/	/	
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	連絡や面会時の情報伝達をこまめに行い、訪問しやすい関係作りや環境づくりに努めている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	その都度口頭で説明し、書面でも理解して頂き納得を得ている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	ご家族の意向を大切に、双方が納得いくように話し合いを重ねている。	/	/	/	
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	運営推進会議などを活用し報告している。	/	◎	/	令和6年の秋祭りには、地域の子供神輿や獅子舞の来訪があり、中庭で利用者も祭りの雰囲気を楽しむことができた。事業所として、自治会までには入会しておらず、管理者は「地域との関わりが少ない」と感じている。事業所近くのコンビニに利用者がおやつを買いに行く際には、事前にコンビニに電話連絡を入れておやつ在庫を確認してもらったり、店員等と会話をしてつながりを持つようになっている。令和7年からは運営推進会議も対面での開催を再開するため、民生委員等との連携も取りながら地域活動の情報を得て、地域との関わりを深められるような取り組みに期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	近隣施設は行事などの関わりを持ちながら交流させて頂いている。自治会や町内会とのつながりが少ないと感じている。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	買い物途中に声を掛けて頂いたり、挨拶をしたりする関係性は築けている。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	ご家族や親戚の面会はあるが、地域との関わりについては薄く感じる。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常のおつきあいをしている。	◎	近隣への外出や通り返りの挨拶はお付き合いがある。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	感染症流行の状況を見ながらドライブや近隣施設との交流を行っている。	/	/	/	
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	◎	理美容や消防署の協力で快適な生活支援や、安全な生活が守られていると感じる。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	書面での開催がほとんどで、積極的には対面開催が出来ていない。	○	/	○	感染対策のため、運営推進会議は書面開催が続いているが、家族全員に事業所の行事や職員研修の内容等を記載した会議資料を送付して、意見や質問を電話連絡時や面会時などに聞いている。質問内容に対する回答は、会議録の中に記載して、家族や市担当者、民生委員等の運営推進会議のメンバーに送付している。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	◎	内部の情報については書面に記載し、ご家族や市への報告を行っている。	/	○	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	書面にてご家族、市役所、地域住民へ現況を報告させて頂いている。	/	△	/	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	理念を作成し共有することで、ご利用者に安心して生活して頂けるように取り組んでいる。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	契約時などにパンフレットなどを見て頂き伝えている。	○	×	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	法的に必要な研修と業務を継続していくために必要な研修を受けられるよう取り組んでいる。	/	/	/	法人代表者である理事長は、事業所の隣にあるケアハウスの施設長を兼務しており、時折事業所に来訪している。月1回程度、各施設・事業所の管理者が集う法人の代表者会議が開催され、職員から出された意見を伝えることができるとともに、運営状況等の情報交換をしている。また、年2回管理者と職員との個別面談が行われ、職員の意見や就業状況等を把握している。さらに、勉強会を実施して、職員のスキルアップにも努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	研修計画を立てて、職員それぞれがスキルアップできるように支援している。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	キャリアアップモデルなどもあるので、入職時や異動時に説明し、やりがいをもち取り組んでもらっている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	◎	グループホーム協会や法人内外でも勉強会を開催し職員のスキルや意識を向上させる取り組みをおこなっている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	面談や懇親会の開催などを開催し、職員のストレス軽減に取り組んでいる。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見過ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	◎	指針の整備や委員会の開催を定期的に行い、職員全員が理解している。	/	/	◎	定期的に虐待防止や不適切ケアの勉強会等を実施するとともに、職員間で具体的な事例を挙げて話し合うなど、理解促進に努めている。また、スピーチロックや言葉遣いについても、日頃から管理者は気になることを職員に伝えて注意喚起を行い、不適切ケアの防止に繋がられるような支援にも努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	毎日の申し送りを聞き、その日の問題はその日のうちに解決できるように取り組んでいる。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	言葉遣いや職員の態度について、毎日確認し点検している。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	勉強会や委員会を定期的に行い、職員全員が理解している。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	定期的に委員会を開催し、ユニットの現状についての取り組みを報告し合う場所を作り、自分たちの対応を振り返っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施錠の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	拘束のないケアについての理解を促し、理解を図っている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	◎	内部研修で勉強会を開催し、職員全員で理解を深めている。	/	/	/	
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	◎	利用者や家族の状況を把握しながら、関係各所へ相談できる体制は築けている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	緊急時のマニュアルを作成し対応している。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	◎	緊急時対応についての研修会を定期的に行い、対応力を養っている。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一步手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	事故やヒヤリハット報告書を作成し、大きな事故が起こらないように事前に事故防止が出来るツールとして活用している。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	利用者個々の状態を把握しておき、それぞれに必要な措置を。その時の場面で考えて取り組んでいる。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	◎	マニュアルを作成し、定期的に勉強会を行い検討している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	マニュアルを作成し、報告出来るように体制を作っている。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	ご家族と向き合いながら、双方の落としどころを見つけながら適切に対応している。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	苦情BOXを作成したり、受付窓口を重要事項説明書等に記載して説明をしている。	○	/	◎	日々の関わりの中で、職員は利用者から意見や要望を聞いたり、会話や表情などから、思いをくみ取ったりするなど、可能な範囲で対応をしている。面会時や電話連絡時等を活用して、職員から利用者の近況を伝え、意見や要望を聞くよう努めている。また、管理者は職員から意見や提案が伝えやすいような雰囲気づくりに努め、業務の終了時に声をかけて、意見を聞いたり、相談に応じたりしている。職員も管理者に利用者のことや業務の相談を行いやすいと感じている。
		b	契約当初だけでなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	契約時に重要事項説明書に数カ所の公的機関を紹介し、施設には言いにくい事は公的機関へ行って頂くように伝えている。	/	/	/	
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	定期的に訪問し、意見を聞く機会を作っている。	/	/	/	
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	いつでも話を聞く体制を作っており、利用者に資するものについては積極的に検討し取り入れるように努めている。	/	/	◎	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	全職員で行い目的を理解している。	/	/	/	外部評価の評価結果は家族に報告しているものの、書面での報告のみに留まっているため、今後は、集合形式の運営推進会議等を活用して、評価結果を報告して意見をもらったり、外部評価の意義や目的を説明したりするなど、出された意見をサービスの質の向上に繋げていくことも期待される。また、家族や会議の参加メンバーに協力を呼びかけて、目標達成の取り組み状況を確認してもらい、意見や助言をもらえるように、周知方法を職員間で検討していくことも期待される。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	◎	今の課題を職員全員で共有し、改善できるように取り組んでいる。	/	/	/	
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	◎	報告を行い、取り組み状況の意見を頂いている。	○	△	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	◎	資料を作成し運営推進会議にて状況を報告している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	BCPや防災マニュアルを作成し、いつでも閲覧できるようにしている。	/	/	/	消防署の協力を得て、火災などを想定した避難訓練を実施している。令和6年6月には河川の増水、11月には地震の設定を行い、隣接するケアハウスとの合同訓練を実施している。ケアハウスとの連携や協力体制は構築できているものの、地域住民や家族の訓練の参加や、災害時の対応を話し合う機会までは設けることができていないため、運営推進会議の開催に合わせて、避難訓練を実施したり、家族や会議の参加メンバーと意見交換や話し合う機会を設けたりするなど、少しずつ災害時の協力体制の構築に向けた取り組みが行われることを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	避難経路を考えながら、様々な想定を設定して取り組んでいる。	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	備蓄を行いながら、設備点検も行い安全対策に努めている。	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	近隣施設と合同で訓練を行い、消防署からの指導等も受けながら、訓練機会を確保している。	×	×	△	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	地域の方を招聘した訓練は実現できていないが、消防署や近隣施設との連携をしながら訓練している。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	市内の病院や居宅に対して、ケアの内容や行事の情報を発信し取り組みを行っている。	/	/	/	地域住民から、入居相談等が寄せられた場合には、快く対応するとともに、必要に応じて適切な関係機関に繋いでいる。法人・事業所として、外国人の技能実習生等の受け入れに協力をしている。また、平時から市行政や地域包括支援センターなどの関係機関と情報交換を行うなど、連携を図っている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	◎	法人内で共有できる体制があり、支援を行っている。	/	△	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	行事やイベントで交流の場所として機能させている。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	◎	外国人技能実習や学生ボランティアの招聘しての行事などの協力を行っている。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	感染症の流行期には出来ていないが、夏祭りの開催等、地域の拠点としての活動を行っている。	/	/	○	